

## 使徒の働き26章18節 「天からの光」

### 1A 神に立ち返らせる信仰

1B 目の開き

2B 闇から光

3B サタンの支配から神

### 2A 立ち返った者

1B 罪の赦し

2B 聖なる者たちのとの相続

## 本文

使徒の働き 26 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、使徒 25 章まで来ました。今朝は 26 章に入りますが、その一部だけを見ます。来週、26 章を一節ずつ見ていきます。今朝は、26 章 18 節に注目します。「それは彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、こうしてわたしを信じる信仰によって、彼らが罪の赦しを得て、聖なるものとされた人々とともに相続にあずかるためである。」

26 章は、パウロがアグリッパ王の前での弁明を読みます。総督フェストゥスに対して、パウロがカエサルに上訴すると言いました。それでフェストゥスは、彼をローマ皇帝に送り出さないといけなくなりました。ところが、彼はユダヤ人の訴えは、死に値することも、何の犯罪にも値しないことを知っていました。はっきりしているのは、これはユダヤ人の宗教についてのことであり、パウロが、死んでしまったイエスという者が生きているということだったのです。それで、フェストゥスが新たに総督になったことを表敬訪問していたアグリッパ王に対して、この話をもちかけます。彼はヘロデアグリッパ二世です。彼はガリラヤ地方を統治するヘロデ家の領主でありながら、ユダヤ教徒でもありました。ですから、このことについて、カエサルにこの囚人を送るのに、訴えの理由を見つけてもらうためです。

そこで、パウロはアグリッパの前で、ローマ総督の前とは違った、本質に迫った内容を語りました。イエス・キリストのよみがえりです。自分がいかに、イエスに出会ったのかを証しました。キリストの弟子を捕縛するために、ダマスコに向かう途上で、昼にも関わらずさらに明るい天からの光に照らされたのです。そこから聞こえてきたのは、復活されたイエスご自身の声でした。パウロは、この方が主ご自身であることをすぐに悟りました。「主よ、あなたはどなたですか。」と尋ねると、「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」と言われました。そして、主はパウロに、ご自身を証しするように任命することを告げられました。そして、イスラエルの民と異邦人のところに遣すと言われました。そして、ここの 18 節の言葉をイエス様がパウロに語られたのです。彼らのところに

パウロを遣わす目的がこれだ、ということです。パウロがちょうど、天からの光によって目が開かれ、イエスを見たように、人々が闇から光へ、サタンの支配から神に立ち返るようにするためです。

ここの「**支配**」という言葉は、国または王国と呼んでもよいでしょう。私たちの生きている国々は、いろいろあります。そこに主権があります。それは、成田空港から旅立ち、日本国の旅券を持って他国に入国する時に、そこにスタンプが押される時、強く意識します。日本という国とは異なる主権、異なる力、異なる支配がそこにあることを知ります。聖書では、本質的には二つの国のみがあると述べています。それは神の国と、サタンの国です。光といのちが支配する神の国と、闇と死が支配するサタンの国です。人は、どちらかに住んでおり、中間や第三の国に住むことはありません。パウロは、人が救われる時は、住む国が移行することなのだと話しています。「コロ 1:13 御父は、私たちを暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。」

世界は初め、神の国しかありませんでした。「創世 1:1 はじめに、神が天と地を創造された。」とありとおりです。しかし、蛇がエバを誘惑し、アダムが罪を犯しました。その時以来、サタンの支配が入り込みました。罪が入り、人が死んでいきます。そこにサタンが支配しています。神はサタンをも支配しておられますが、しかし、その反抗する勢力は世の終わりまで続きます。しかし、神はキリストを遣わされました。女の子孫が、蛇の子孫のかしらを打つという約束を、神は語られました(創世 3:15)。キリストが来られて、その勢力を無力化されるのです。「ヨハ 1:5 光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。」そして、世界を再び神の支配に奪還しておられるのです。

## 1A 神に立ち返らせる信仰

イエス様は、ご自分の支配の中に人々を移されるためにすることを、一つ一つ述べられます。

## 1B 目の開き

一つは、「それは彼らの目を開く」ことです。人には、目の開きが必要です。何を見ているかで、すべてが変わってきます。イエス様は、「マタ 6:22-23 からだの明かりは目です。ですから、あなたの目が健やかなら全身が明るくなりますが、目が悪ければ全身が暗くなります。ですから、もしあなたがたのうちに光が闇なら、その闇はどれほどでしょうか。」と言われました。20 年ぐらい前に、マトリックスという映画が流行りました。それは今、生活している日常の世界は、実は、マトリックスという勢力によって見せられている仮想現実であり、主人公の目が開かれたら、実際は、荒廃した世界であったというものです。パウロは、同じように、自分はキリストの弟子を迫害することで、それが神に仕えていることであると思っていました。けれども、復活のイエス様が彼に現れて、「わたしは、あなたが迫害しているイエスだ」と言われたのです。神に仕えているのではなく、神に逆らい続けていたのです。目が開かれたのです。

パウロは、見えなくさせているのは悪魔の仕業だと言っています。「II コリ 4:4 彼らの場合は、

この世の神が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる福音の光を、輝かせないようにしているのです。」イエス様は、この霊の戦いについて、種蒔きのたとえを語られましたね。道ばたに落ちる種は、鳥が来て食べてしまいますが、それは「マタ 13:19 悪い者が来て、その心に蒔かれたものを奪います。」と言われました。イエス様のすばらしさ、この方こそが救い主であられ、他には救いはないということを見えなくさせているのが、悪魔で、みことばによって明らかになるのに、それを心から摘み取ってしまうのです。ですから、私たちの伝道は祈りが大きな部分を占めます。祈りによって、神に悪魔の要塞を、その人の心にある要塞を打ち砕いてくださるように願うのです。

そして信じた者たち自身が、目が開かれる必要があります。私たちの救いがいかに偉大か、それを知っているかどうかで、キリスト者の生活の全てが決まります。エペソの人たちのために、パウロがこう祈りました。「エペ 1:18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光に富んだものか、19 また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。」エリシャのことを思い出します。そのしもべが家から外を見ると、アラム軍の馬と戦車の軍隊が町を取り囲んでいました。しもべが、「ああ、ご主人様、どうしたらよいのでしょうか。」と嘆きました。エリシャは、主に祈って、「どうか、彼の目を開いて、見えるようにしてください。」と言いました。すると、そこには、「火の馬と戦車がエリシャを取り巻いて山に満ちていた。」とあります。(Ⅱ列王 6:15-17)どうか、目が開かれるようにという祈りを献げてください！

## 2B 闇から光

そしてイエス様は、「闇から光に」と言われました。神は、天地創造において、闇から光を与えたところから始められました。「創 1:2-3 地は茫漠として何もなく、闇が大水の面の上にあり、神の霊がその水の面を動いていた。神は仰せられた。「光、あれ。」すると光があった。」神は、その創造の働きを、一人一人の人間に心の中で行われます。暗くされている思いと心に、キリストの光を照らされるのです。「Ⅱコリ 4:6 「闇の中から光が輝き出よ」と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださったのです。」

闇は、罪や悪と関係があります。対して、光は正義や善とつながっています。「エペ 5:9 あらゆる善意と正義と真実のうちに、光は実を結ぶのです。」主イエスは、光として世に来られました。そして、闇、つまり、自分の悪や罪を明らかにされます。しかし、それは裁くためではなく、救うためです。明らかにされたことをもって、悔い改め、神に憐れみを願うならば、神は罪を清め、光の中に入れてくださいます。けれども、その悪をそれでも自分のものとしたのであれば、退けます。「ヨハ 3:18-21 御子を信じる者はさばかれない。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の名を信じなかったからである。19 そのさばきとは、光が世に来ているのに、自分の行いが悪い

ために、人々が光よりも闇を愛したことである。20 悪を行う者はみな、光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光の方に来ない。21 しかし、真理を行う者は、その行いが神にあってなされたことが明らかになるように、光の方に来る。」自分の罪が明らかにされたら、どうかキリストのもとに来てください。この方は裁くためではなく、救うために来られたのです。この方の憐れみを信じて、罪の赦しを受けてください。

### 3B サタンの支配から神

そして主は、「**サタンの支配から神に立ち返らせ、**」と言われました。先にお話ししましたように、イエスがこの地上に来られたというのは、それだけで壮絶な戦いが始まったということです。この方の生涯に、数多くの悪霊との遭遇があったことを思い出してください。これまでは、自分たちの支配だと思っていたサタンと、その手下の悪霊どもが、主が来られたことによって、その領域が脅かされているのです。そして、主は憐れみをもって、囚われている人々を解放されました。イザヤが、キリストのことをこう預言しました。「61:1b-2a 主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕われた人には解放を、囚人には釈放を告げ、主の恵みの年々を告げ」

ですから、主が来られるということは、大きな戦いが起こるということです。サタンによる必死の抵抗が来ます。主が、その激しさをこう表現しておられます。「マタ 11:12 バプテスマのヨハネの日から今に至るまで、天の御国は激しく攻められています。そして、激しく攻める者たちがそれを奪い取っています。」自分の大きな変化が来ると言うことです。激動が来ます。そして、主が十字架に付けられ、甦られた時に、これらの悪の勢力が、さらし者にされて凱旋の行列の中を歩いていることを、パウロはコロサイ 2 章 14-15 節で話しています。

このようにして、私たちは救われています。ここで大事なのは、私たちがどちらに付くか？ということ。どちらの権威、どちらの主権に従うか、その従順と服従が求められます。「ロマ 6:16 あなたがたは知らないのですか。あなたがたが自分自身を奴隷として献げて服従すれば、その服従する相手の奴隷となるのです。つまり、罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至ります。」自分をどちらに従わせるか？ボブ・デュランは、「だれかにあなたは仕えているはずだ」と言う歌をうたっていましたが、それは悪魔か、主かどちらかだ、誰かに仕えているのだ、という内容です。<sup>1</sup>「どっちがいいのかな～」と、私たちは中立、中庸を好みますが、それは全くできません。両側が戦っている時に、その真ん中にいたらどうなりますか？それも、どちらの側の兵士の服も来ていないのです。国旗も掲げていない。両者から撃たれてしまいます。主イエスを信じるなら、主にすべてを明け渡す決意が必要です。

### 2A 立ち返った者

こうして、神に立ち返ります。次にイエス様はパウロに、そのように立ち返った後の、神の福音、

---

<sup>1</sup> <https://g.co/kgs/AGVx4d>

良き知らせを伝えます。

## 1B 罪の赦し

「**こうしてわたしを信じる信仰によって、彼らが罪の赦しを得て、**」イエスに信頼するその信仰によって、罪の赦しを得ます。人は必ず、罪の意識があり、またその後で神の裁きがあることを知っています。神について、律法について何も知らない異教の人であっても、「**彼らは、そのような行いをする者たちが死に値するという神の定めを知りながら**」とパウロは言っています(ロマ 1:32)。

いや、文化によって罪の意識は違うだろう、という人たちがいますね。アメリカに行った時に、未開の地で何十年も宣教の働きをしておられた方が証しをしているのを聞きました。いろいろな文化がありますが、ある文化では、聖書を読ませると、イスカリオテのユダが最も好かれるという文化もあったそうです。裏切りの文化が尊ばれているのだそうです。そして、当たり前のように人を殺すのが習慣になっているところもありました。しかし、興味深いことに、夜に殺して白昼には殺さないのだそうです。殺すことが何でもない文化なのに、それでも人目を避けて殺しているのです。どんな人にも、「これをやってはいけない。正しい神はそれを見ている。」というものがあります。私たちは、地上の裁判所に行かなかったとしても、終わりの日に自分のしたことについて裁かれる、最後の審判があるのです。

たとえ罪が誰の目にも明らかにされていなくとも、罪は人を苦しめます。ダビデが、バテ・シェバと姦淫の罪を犯して、その後で夫ウリヤを殺したのですが、人に知られずにいました。友人であり預言者のナタンが、明らかにして、それでダビデは、「主の前に罪ある者です。」と告白しました。そして、「主も、あなたの罪を取り去ってくださった。あなたは死なない。」と宣言しました(Ⅱサム 12:13)。その時に、ダビデが歌ったのが詩篇 32 篇です(交読文にする)。背きが赦され、罪を覆われた人は幸いだ。自分が黙っていた時は、「骨が疲れ切り」「骨の髄さえ、夏の日照りで乾ききった」と言いました。けれども、罪を神に知らせた時に、「あなたは私の罪の**とがめを赦してくださいました。(5 節)**」と言っています。そして、救われた喜びが湧き出ます。「**救いの歓声で、私を囲んでくださいます。(7 節)**」と言いました。罪が赦されるのは、巨額の借金を帳消しにさせていただくようなものであることを、イエス様は喩えの中で語られました。イエス様の流された血は、私たちの全ての罪を清める力があります。

## 2B 聖なる者たちのとの相続

そして、「**聖なるものとされた人々とともに相続にあずかるためである。**」と言われました。私たちは、罪が赦されるだけでなく、聖なる者となるという恵みがあります。罪から離れる恵みです。それは、御霊によって肉の行いを殺すことができる自由であります。そして聖なる者とされたら、他の聖なる者たちと共に、神の国の相続にあずかることができるのです。「エペ 1:10-11 時が満ちて計画が実行に移され、天にあるものも地にあるものも、一切のものが、キリストにあって、一つに集めら

れることです。またキリストにあつて、私たちは御国を受け継ぐ者となりました。すべてをみこころによる計画のままに行う方の目的にしたがい、あらかじめそのように定められていたのです。」キリストが再び戻って来られたら、すべてのものは、キリストのところに集められます。そして、その神の国を私たちはキリストにあつて受け継ぐ者となったのです。

人が人として生きる、その生きがいはどこで見出すことができるでしょうか？それは、神から任されたものを与えられるというところにあります。「創世 1:28 地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うものすべての生き物を支配せよ。」神がすべてのものを支配しておられるように、神に任されたものを支配する、管理する時に、自分の造られた存在意義を見いだせるのです。それで、神はアブラハムを召し出し、アブラハムの子孫に約束の地を与え、そこに住むようにされました。そして、終わりの日にはキリストにあつて、信じる者たちが世界が与えられ、それを治めるようにされているのです。イエス様は、ご自分が戻って来られた後に報いを与えることを、喩えで語られ、「マタ 25:23 よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。」多くの物が任されます。それがいかに優れたことなのかを、どうか思い巡らしてください。回復した自分が、これまた回復した被造物を任されます。キリストにあつてすべてものが主を賛美しています。その喜びと平安、聖霊のご臨在の中で永久に生きるのです。

神の国が目で見える形で臨みます。今は、神のすばらしさが自然で見ることができますが、しかし、不完全です。罪による呪いは見え隠れします。どうか、光のところに来て、救いの喜びを手になしてください。そして、すべてが光の中に入るのを待ち望んでください。